

障害者虐待 2,439 件

2015 年度調査、死亡は 3 人（厚生労働省）

2015 年度に確認された障害者への虐待は 2,439 件で、前年度より 163 件増えたことが 12 月 16 日、厚生労働省の調査で分かった。被害者は 451 人増えて 3,154 人、このうち 3 人は家族による暴行や無理心中で亡くなった。調査は、全国の自治体や労働局に 2015 年度、相談や通報があった事例を集計した。

被害者の内訳を加害者別にみると、家族ら養護者から虐待された人が約半数の 1,615 人、福祉施設の

職員が 569 人、職場の雇用主が 970 人。障害種別（複数回答）では、知的障害が最も多く、特に施設職員から虐待を受けた人の 83% は知的障害だった。

また、施設職員や雇用主らによる虐待に関する相談・通報件数が増加。厚労省は、虐待防止への普及啓発の結果、国民の関心が高まったことなどが背景にあると分析している。

（福祉新聞・第 2792 号 2016 年 12 月 26 日）